

令和6年度
富山県自主防災組織リーダー研修会
実施報告書

【目次】

1	実施概要	1
2	研修日程	4
3	参加者名簿	5
4	アンケート調査表及び集計	16

1 実施概要

1 目的

この研修会は、自主防災組織の指導的立場にある者を対象とし、高度の知識、技能を習得させるとともに、その役割についての自覚を高め、その地域における自主防災組織活性化のために活躍できる人材の育成と組織づくりを積極的に推進できる人材の養成を図り、地域防災力の強化に資することを目的とします。

2 日時

令和6年7月27日（土）10時00分から15時00分まで

3 会場

富山県防災危機管理センター 3階研修室（富山市新総曲輪1-7）

4 参加者

- (1) 県内の自主防災組織リーダー
（防災危機管理センター） 105名 （リモート会場）87人
- (2) 県職員・市町村職員 現地会場 7人
リモート会場 6人

5 研修内容

(1) 開講式

開講にあたり、熊本防災・危機管理課長から主催者挨拶がありました。主催者挨拶では、本県が被災した1月1日の能登地方を震源とする能登半島地震並びに昨年6月、7月に発生した大雨・土砂災害の災害などについて触れ、自主防災組織のリーダーが中心となって日頃からの備えを整えておくことの重要性について説明しました。

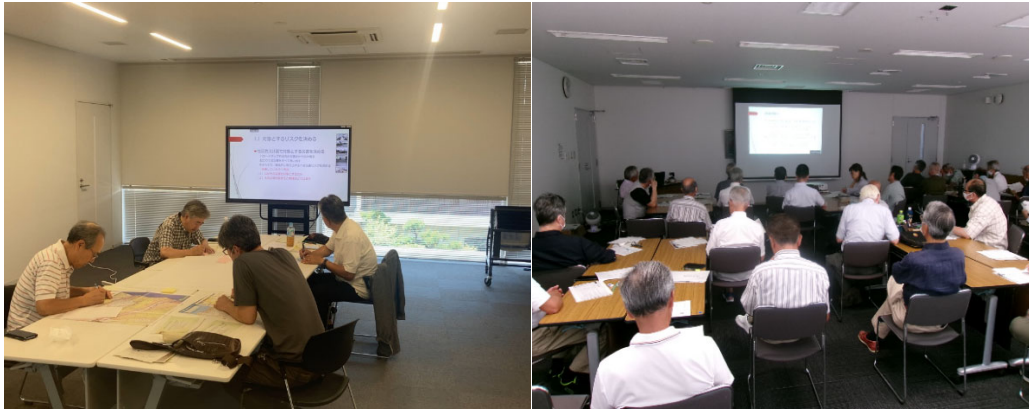
(2) 講義1「地区防災計画について」

ア 講師

神戸大学 名誉教授 室崎 益輝様

イ 概要

現在の日本の発災状況、多様な災害に対応するためのコミュニティ防災から地区防災計画の重要性について触れ、地区防災計画のプロセスや計画策定における課題、自治体として取り組むべき活動等について講義いただきました。地区防災計画のプロセスでは、計画を策定するうえで必要なことやPDCAサイクルでの実践例など、県内の自主防災組織の方々にとって参考となる点が多く、有意義な講演となりました。



(3) ワークショップ「みんなでつくる地区防災計画」

ア 講 師

神戸大学 名誉教授 室崎 益輝様

イ 概 要

午前の講義を元に、地区ごとの課題や意見を付箋に書き出し、模造紙に貼り発表者がまとめて発表するグループワークを行いました。グループワークでは対象とするリスクを決め各地区ごとの現状を整理し、地区防災計画で被害を軽減のための課題を考えました。また、その地域課題について解決のための改善策を対象地区ごとに書き出し、グループごとに発表しました。

まとめとして、全体の意見が出た後、室崎様による講評が述べられ、富山県の各地域で共通する課題にどのように対処していけばよいかが述べられました。



(4) 閉講式

参加いただいた県民の皆様への修了証の交付をもって終了いたしました。今回は、リモート会場にてご参加頂けた方も多く、多くの方に終了証を交付しました。

今回の研修会に参加された皆様には、研修を通じて得られた知識や技術を各地域に持ち帰り、地域の皆様と話し合っって地域防災力の向上に取り組んでいただくことを期待しています。

2 研修日程

日時：令和6年7月27日（土）10時00分から15時00分まで

会場：富山県防災危機管理センター 3階研修室

時 間	所要 時間	項 目	講師・内容等
9：20～10：00	40分	参加者受付	富山県防災危機管理センター3階
10：00～10：15	15分	開講 (オリエンテーション)	主催者挨拶 日程説明等
10：15～12:00 (15分延長)	105分	講義 「地区防災計画について」 質疑応答	講師：神戸大学名誉教授 室崎 益輝 様
12:00～13:00	60分	昼食	
13：00～14：30	90分	ワークショップ 「地区防災計画のコミュニ ティにおけるプロセス」 質疑応答	
14：30～15：00	30分	閉講 (修了証の交付等)	修了証交付 アンケート記入

4 アンケート調査表及び集計

実施要領：電子アンケート

回答数：77名（研修参加者170名）

回答率：45.2%

番号	設問	回答	集計
1	〔研修会全般〕この研修会は、役に立つものでしたか。	大変役に立った	25
		やや役に立った	30
		ふつう	15
		あまり役に立たなかった	5
		全く役に立たなかった	2
2	「あまり役に立たなかった」または「全く役に立たなかった」理由は何ですか。	「あまり役に立たなかった」または「全く役に立たなかった」選択時のみ	7
3	講義「地区防災計画について」は役に立つ内容でしたか。	大変役に立った	23
		やや役に立った	31
		ふつう	17
		あまり役に立たなかった	5
		全く役に立たなかった	1
4	「あまり役に立たなかった」または「全く役に立たなかった」理由は何ですか。	「あまり役に立たなかった」または「全く役に立たなかった」選択時のみ	6
5	ワークショップ「地区防災計画におけるコミュニティにおけるプロセス」は役に立つ内容でしたか	大変役に立った	16
		やや役に立った	36
		ふつう	19
		あまり役に立たなかった	6
		全く役に立たなかった	0
6	あまり役に立たなかった理由は何ですか。	「あまり役に立たなかった」選択時のみ	6
7	今後このような研修会を受講する場合、どの災害の研修を受講したいですか（2個まで選択可能）	地震・津波	55
		風水害	45
		土砂災害	11
		雪害	11
		火山	1
		住宅火災、林野火災	4
		原子力災害	2
		寄り回り波	0
災害全般	6		

8	今後このような研修を受講する場合、どのような形式の研修を受講したいですか。	座学のみ	30
		オンラインのみ	11
		座学とオンラインのハイブリッド形式(状況に応じてフレキシブルに対応)	37
		そもそも受講したくない	1
9	「そもそも受講したくない」理由は何ですか。	「そもそも受講したくない」選択時のみ	1
10	講義（座学）を受講する場合、どのような内容を受講したいですか。 (3個まで選択可能)	自主防災組織としての日ごろの備え（防災啓発、防災訓練、資機材保守点検等）に関すること	50
		気象や災害情報の収集・伝達に関すること	18
		避難誘導に関すること	28
		避難所運営に関すること	31
		避難行動要支援者対策に関すること	24
		災害の体験談	8
		他の地域の自主防災組織の取組みに関する事例紹介など	25
		地区防災計画策定に関すること	13
その他	1		
11	どのような内容の講義を受講したいですか。	「その他」選択時のみ	1
12	実習（ワークショップ、図上訓練等）を受講する場合、どのような内容を受講したいですか。 (3個まで選択可能)	災害図上訓練 DIG（地域の災害危険箇所、避難施設、避難経路等の把握）	38
		避難所運営訓練 HUG（図上で避難所運営を想定した訓練）	42
		災害対応運営訓練 SUG(現場活動(共助)、要配慮者の保護、地区防災対応本部の運営等を想定した訓練)	38
		出火防止・初期消火（災害発生時の家庭での火の止め方、消火器の使い方等）	2
		負傷者の救出・救護（家屋に閉じ込められた人の捜索、救助等）	14
		応急救護（心肺蘇生・AEDなどの普通救命講習等）	10
		避難誘導（煙体験、避難誘導方法、住民同士の協力体制等）	13
給食・給水・トイレ（非常食糧、飲料水、調理方法等）	21		

		グループディスカッション（被災経験者を交えたディスカッション等）	14
		その他	0
13	どのような内容の実習（ワークショップ、図上訓練等）を受講したいですか。	「その他」選択時のみ	0
14	今後研修を受講する場合、どこの会場がいいですか。	防災危機管理センターでよい	39
		別の場所がよい	13
		どちらでもよい	25
15	別の場所の方がよい理由は何ですか。	「別の場所がよい」選択時のみ	10
16	あなたのお住まいの市町村はどこですか。	各市町村	77
17	あなたの地域の自主防災組織の活動状況はいかがですか。	活動が活発	4
		ふつう	46
		活動が低調	26
		自主防災組織が未結成	1
18	あなたの地域の自主防災組織の「活動が低調」な理由は何ですか	「活動が低調」選択時のみ	23

19	あなたの地域で実際に自主防災活動を行うにあたり、課題や疑問点があればご自由にご記入ください。	富山市	町内会の世帯数が750と多いため、意見の統一が難しい。
		富山市	次の世代の青壮年部の方々に参加してもらわないと意味がないと思う
		富山市	町内会役員のなり手がいない
		富山市	防災意識が低い、災害物資の購入、保管
		富山市	これから勉強します。
		富山市	地域が広いため 担当など決めきれない
		富山市	自主防災会を今年度新たに設立したばかりなので、地道に活動しておられる市内や県内の団体についての具体的な活動内容を知りたいです。
		富山市	予算不足で集客力のある行事ができない
		富山市	被災時、自主防災組織の構成員も被災することも考えられる、組織が機能するか心配です。被災時通信網途絶が心配である、人が走り回っての情報の伝達、収集も考えておかねばならない。
		富山市	マンパワー不足 壮年層の活動時間取れない 防災意識の格差大きい
		富山市	自主防災組織の認識不足で必要性が浸透していない。防災訓練の実施について地域の盛り上がりがない。今後災害が発生した時には慌てる事なく、速やかな避難対応できるように、今回得た知識を活用したい。

	富山市	<p>とりあえずまずは、安否確認や連絡体制が重要な喫緊な課題と思います。また要支援者の実態の把握と支援の体制をつくること。自主防災組織の各班（避難誘導、消火、救命救出、情報など）の実効性を高めること。等々いろいろあります。</p> <p>根本にある国の政策も住民の命暮らしを第一に考えて見直すべきはしっかり見直しあらためてほしい。防災減災の観点から政策をすすめてほしい。ここがまず大元で重要と思います。そのうえで自治体や個別町内会の対策もできます。</p> <p>特に専門家からも指摘されていますが、都市計画づくり（大都市圏のタワーマンション急増など社会構造の見直し、災害に強い都市づくり町づくり）、原発政策見直しは大きな課題と思います。物流が途絶える中で、食料や生活用水を確保するために地産地消（災害用井戸水なども含む）も重要な課題と思う。担い手をしっかりつくるための財政支援援助がとても重要と思います。町内会の「自主性」を尊重するも、防災を町内会に押し付けるのではなく行政が全体の責任をきちんと取りきることが問われていると思います。</p> <p>会長や自主防災隊長など重職にある人々には、町内会レベルではなく、行政レベルでしっかり手当を出すことも検討する必要があるものと考えています。まったく無償でやっておられる町内会もあるようですが、これではあまりにも役員になった人の負担が大きすぎると考えています。かつてひと昔まえの高度成長の時代では可能であったこともいまは時代が変わり、まったく厳しい現状・実態（貧困格差社会、少子高齢化社会、役員なりて不足などなど）があります。70代、80代でも年金生活だけではとてもやっていけず現役で働いておられる人もたくさんいる昨今です。</p> <p>防災減災は住民の命に係わることで大変な仕事であり、専従がいても不思議ではないくらいの重要な仕事です。こうしたことを単に町内の「自己責任」や「ボランティア性」に委ねないようにしてほしい。</p> <p>ただでさえ高齢化少子化社会を迎えて役員のなり手もいなく、「自治会」の名のもとに、そこにおまかせするようなことは見直ししてほしいと願っています。また県や市町村自治体も防災関係人員を予算の関係を理由として削減したりすることがないように人員配置もしっかり行う必要があるのではないか、と思います。</p> <p>「自らの命は自ら守る」というのはまったくその通りですが、それをやりきるためにも国や自治体が根本にかかわる政策見直しや財政面を含めてしっかり手立てをとってほしいと強く思います。それが防災減災の「大前提」だと思っています。</p>
	富山市	<p>高齢者が多く避難行動が困難の人が多。どこまで自主防災組織として支援すべきか課題である。</p>

富山市	組織はあるようだが、ただあるだけで、なにをどうすればいいのか、わかっていない。これから勉強します。
富山市	昔と違い、様々な避難方法が言われている現在、町内会がどこまで(指導・誘導という点で)誘導できるか。若い家族はワンボックスカー等で早めの避難をすればいいので、町内会は一人で避難できない人だけを助ける方法でもいいか。
富山市	午前の「日頃の自主防災活動について」の最後に質問しましたが、広域避難場所として、富山市から富山県に届けられている稲荷公園駐車場の利用状況は、富岩運河環水公園駐車場以上に目的外使用が甚だしい状況です。こんな状況で、地区防災計画を作成しても、現状を知っている住民の理解を得ることは困難です。行政として、しっかりと広域避難場所を管理し、公助としてのミッションを果たしてほしい。もし、詳しい話しが出来るのであれば、以下へ連絡下さい。(証拠写真等を提供できます。) メール:(個人情報)
高岡市	避難行動要支援者の情報共有
高岡市	防災役員の危機管理が薄いので、どのようにスキルアップを図れば良いか??
魚津市	しばらく活動がなかったため、参加者が集まりにくいと思われる。
魚津市	防災に対する意識が低い。今まで災害が少なかった事もあるが自分のこととして思えない。防災訓練が同じパターンで、効果的では無い。訓練参加者が少ない。
滑川市	<ul style="list-style-type: none"> ●学校・教職員・学生・教育委員会を巻きこむ方法論、取り組み。 ●住民の主体者意識の醸成方法(限られた防災講座は実施できるが、単発で終わってしまう為、「組織の再稼働」「組織図の作成」「やるべき事の明確化(平時・災害時)」「PDCAの構築」「訓練の実施・レベルアップ」「人材育成」「組織の継続」が課題。 ●自主防災組織稼働の為に「防災・減災意識の醸成」「自主防災組織」「避難所立ち上げ」「避難所運営」「個別防災訓練」の防災講座を実施していますが、それぞれの講座のプレゼンテーションを県にて作成頂き、共通項目の共用部分を同一で管理し、各地区に合わせて講座実施者が追記するような基本資料の作成をお願いしたい。各自治体でも共通項目はあるはず、そこがブレたり、違っている発災時右を向く行動も左を向く結果になる為必要と考えますが如何でしょう。
黒部市	地区防災計画の見直しが必要。
砺波市	ワークショップのやり方を当初に説明してもらいたい。
砺波市	高齢者の避難の連絡方法
砺波市	防災計画を作成したい
砺波市	安否確認の詳しい説明がほしい

小矢部市	先ず出来ることから取り組むという認識が無く、初めから 90 点 95 点を取ろうとして動けないジレンマに陥っている、
南砺市	防災訓練が万年かしている中で夜間の訓練は危険が伴う可能性が有るが必要だと思うし実施できれば良いと思います
南砺市	高齢化が進み、高齢者や障害者、乳幼児、外国人などの災害弱者（要支援者）に対し、災害が発生してから数日後に指定避難所が開設されても間に合わず、二階へ避難や車中泊が増え災害関連死も必然的に増えると思います。災害が発生と同時に、公的機関の医療施設を速やかに特定避難所に指定し、個別避難計画書を提出されている人を優先的に入所するシステムにして欲しい。支援する人、安否確認する人が少なくなりつつあるなかで、行政も考えていただきたいです。
上市町	町内運営も無関心な若い人が多いのに、自主防災は、もっと低い。どうしたら若い人が関心を持ってくれるか教えてください。今の若い人の考え方は違う。
射水市	個人情報の保護が壁となって、連絡網等が整備できない。
射水市	各個人により防災意識に大きな差があり、自治会単位で訓練を含めた啓発活動が難しい。
射水市	能登半島地震の Reporter による避難場所でのインタビューで、体育館に避難されている人へのインタビューの後、外の駐車場の車の中におられる（年配の）人にも取材をしておられました。 記者：『何故車の中で・・・？』の問いに対して、『ペット（犬）が一緒にいるので、皆さんに迷惑がかかるから仕方なく此処にいます』と言う返答でした。 ※現実問題として、自分の町内の班（14 軒）で約半数の軒数が何某かの「ペット」を飼われています。 ※災害避難時に、この方々にどう説明（日頃においても）説明すればよいのでしょうか。
射水市	災害時の避難対策等に地域住民の状況の把握が必要だが、個人情報保護との絡みが強い。地盤強度調査の実施と情報開示並びにそれに沿った指針の開示と指導が弱い。